決裁	議長	局長	参事	次長	主幹	副主幹	書記
		谷					

別記様式

令和　元年　8月　27日

養父市議会議長　様

養父市議会議員　　谷　垣　　満　印

研修成果報告書

養父市議会議員研修要項第７条の規定により、下記のとおり成果を報告します。

記

1　研修日時　　令和　元年８月１日（木）13：00～17：30
　　２日（金）　9：30～16：00
2　研修先　　東京ビックサイト　国際会議場
3　研修目的　　全国地方議会サミット2019出席のため
4　成果（具体的に）

早稲田大学マニュフェスト研究所が年に一回開催する1000人規模のサミットで、今年は「チーム議会が地域をより良くする」をメインテーマに開催された。

8月１日（木）

○【ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ】「ＮＨＫ地方議員２万人アンケートのホンネ」 13：20～
江藤 俊昭 氏（山梨学院大学教授）　杉田 淳 氏（NHK報道局選挙プロジェクト副部長）
久保 隆 氏（NHK報道局選挙プロジェクト記者）

NHKが実施したアンケート結果を基に地方議員の実情や意識について検証された。

セクハラ・パワハラの課題は根強くあり倫理条例等で早急に対処すべき、また岩手県町村議会議長会が昭和50年代に制定した「議員の信条」の内容が以後40年たっても達成できていないのは、チーム議会になっていないことが原因であるとの指摘があった。

○【ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ】「チーム議会に職員だからできること」 14：20～
清水 克士 氏（滋賀県大津市議会局次長）　岩崎 弘宜氏（茨城県取手市議会事務局次長）
小原 昌江 氏（岩手県北上市議会事務局議事課長）

議会事務局職員の立場から見た地方議会・議員との関係性や、地方自治・住民自治への役割について示された。

議会事務局職員もチーム議会の一員であり、その活動は議員のためではなく市民のために努めるべき。また、選挙前の空白期間や改選による議会改革の後退を防止するための基本条例であり、選挙のない職員だからこそできることがあるとの意見が示された。

養議　第　号
1.8.27
兵庫県　養父市議会事務局

○【講演】「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」 16：20～
片山 善博 氏（早稲田大学教授、元総務大臣）

チーム議会の実現は今必要なことであり、二元代表制の議会の役割を的確に示す言葉。目的は協議して決める（議決する）こと。裁判に例えると、意見陳述や証拠確認など是非を判断する審議を充実させる必要があり、公聴会や参考人招致の制度を活用すべき。また議会の仕事は「決めることであり、その判断を慎重にすすめること、チームで取り組むこと。そしてその議決に責任を持つことである。」との指摘があった。

○【総括】 北川 正恭 氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事） 17：20～

地方創生の進まない弱点は、適切な首長、議会の不在である。執行部のゆるみは深刻であり真剣に向き合える議会が必要。議会改革のスタートは議長から。議会は民意の反映であり創生は執行権者ではなく決定権者の議会であるべき。それぞれの地方議会による善政競争を高めることが創生に必要であるとの指摘があった。

8月2日（金）

○【先進事例報告】「チーム議会の実践と課題」 9：30～
千葉 茂明 氏（月刊「ガバナンス」編集長）コーディネーター
早苗 豊 氏（北海道芽室町議会議長）　諸岡 覚 氏（三重県四日市市議会議長）
梅村 均 氏（愛知県岩倉市議会議長）

地方議会の議長から議会改革における先進事例の発表があり、マスメディアの視点を踏まえたコーディネートで進行された。

議長選挙におけるマニュフェストが議会のロードマップになることや、委員会代表質問を創設し、委員全会一致の意見を原則とすることで質問の重みを増すなどの事例が発表された。また議会事務局については、議員主導から協働に意識を改め職員のやりがいを議員が醸成すべきである。また事務局が積極的にかかわる風土があったことで議会改革が進んだ実感から、改革に前向きな局長の配置が重要であり、法制担当職員の配置も有効で必要との指摘があった。

○【ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ】「チーム議会の視点から首長との関係を考える」 10：30～
北川 正恭 氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事） 谷畑 英吾 氏（滋賀県湖南市長）
越田 謙治郎 氏（兵庫県川西市長） 上村 崇 氏（京都府京田辺市長）

議会改革と地方議会に必要なことについて首長の立場からの見解が示された。

過去の歴史から日本は議会が第一であり、議員は議会民主制を理解し自覚すべき。民意から首長の執行がずれていないか、多様な市民の負託を受けた議員の合議で諮ることが目的であるとの指摘があった。また首長（行政）は日々意思決定の連続であり、多様な意見の反映が疎かになりがち。議会の権能は慎重に審議することや、首長は独任制であり合議制である議会がしっかりしないと間違った方向に進む可能性があることが示された。

○【先進事例報告】「チーム議会の視点から選挙のあり方を考える」 12：20～
中村 健 氏（早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）
則武 宣弘 氏、中原 淑子 氏、林 敏宏 氏（公明党岡山市議団）

市議団と有識者、市民の協働により４年をかけて作成した「市民未来創生プラン」の作成過程を基に、チーム議会の形成方法や市民協働の実例発表があった。作成過程から市民が参画することで未来の実現に議会が果たす役割が明確になったことや、会派マニュフェストを協議する場がないことを踏まえ、議員個々の目標＋チーム議会（会派）の目標を示し達成に努めることが必要であるとの指摘があった。

○【ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ】「チーム議会の視点から市民との関係を考える」 13：40～
佐藤 淳 氏（青森中央学院大学准教授） 瀧野 良枝 氏（議会議員、元飯綱町議会政策サポーター）
竹下 修平 氏（愛知県新城市議会議員） 原口 佐知子 氏（静岡県牧之原市 市民ファシリテーター）
田口 裕斗 氏（岐阜県可児市議会高校生議会 、現 立命館大学３年）

市民の立場から議会・行政・政策立案に携わり、議員や市民ファシリテータ、教育学生として現在も活動されている市民から、議会との関わりの経験や議会に求めるものについて意見発表があった。

議員と市民の成功体験が必要であり政策の実現や教育過程における議員の参画等の重要性や、地域をよくするのは市民であり、そんな市民を育てるのも議員の役割であるとの指摘があった。一方で必要とされる議員・議会を育てるのは市民であるとの指摘もあった。

○【ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ】「国会は地方議会をどう見ているか」14：45～
石破 茂 氏（自由民主党 衆議院議員、元地方創生担当大臣） 稲津 久 氏（公明党 衆議院議員、党地方議会局長） 逢坂 誠二 氏（立憲民主党 衆議院議員、元ニセコ町長）

現役国会議員の視点から、地方議会に対する見解や地方創生に果たすべき役割などについての意見が示された。

まとめ

創生に地方議会が果たす役割の重要性は増し、権能を発揮できる議会・議員の充実と住民自治の実現が求められる現状において、議会事務局職員と市民を含めた「チーム議会」の有効性と、その実現の必要性を感じた。地方分権の指針が示されてから２０年の経過を目前に、地方議会・議員をとりまく仕組みや環境が変化を続ける一方で、意識の変革が追い付いていない実情が創生を停滞させている要因であるとの指摘は現実である。また「その中核となるべきは地方議会である」との指摘は、現役議員としての責任を感じると同時に議員として地位と身分を誇り、権能を負託される重責を改めて認識する機会となった。

田口 裕斗 氏（岐阜県可児市議会高校生議会 、現 立命館大学３年）の「興味のない自分をまちに貢献してみようと思わせてくれたのも議員であり、地域をよくするのは市民の仕事。良い地域を作るために良い市民を育てるのも議員の仕事である」との言葉に感銘を受けた。実直に理想のまちづくりの実現を願う若い世代の言葉は希望であり財産である。養父市や次世代・養父市議会に対し、現役議員の職責と負託の全うに努めたい。